

# 南アルプス市立豊小学校 令和元年度後期学校関係者評価書

令和2年1月24日  
豊小学校学校関係者評価委員会  
委員長 梅本 澄雄



## 【第2回 学校関係者評価委員会】

- 1 実施日 令和2年1月24日（木）午後4時30分から午後5時30分まで
- 2 会場 豊小学校校長室
- 3 参加者

(1) 学校関係者評価委員（都合により1名欠席）

NO	氏名	役職	備考
1	野澤 正樹	豊地区自治会会長（地域代表）	副委員長
2	齊藤 尚子	元本校校長	
3	梅本 澄雄	豊地区教育振興会会長 元本校校長	委員長
4	津久井豊徳	市教育長職務代理者 元櫛形中学校校長	
5	花輪 絹子	豊地区主任児童委員	
6	鶴田 恭子	P T A会長（保護者代表）	

(2) 学校職員（3名）

NO	氏名	役職	備考
1	名取 広行	校長	本校在籍1年目
2	井上 武人	教頭	本校在籍1年目／事務局
3	丸山 哲也	教務主任	本校在籍11年目

## 4 学校から提案された内容

- (1) 教職員による後期自己評価アンケートの状況
- (2) 学校生活に関する後期児童アンケートの状況
- (3) 豊小学校後期自己評価書（アンケートの分析及び改善方策について）

## 5 協議内容・意見

○豊小学校後期自己評価書に対する考察

（教職員・児童アンケートの考察／改善方策に対する検証）

(1) 教育目標について

- ・教育目標は、職員の中で共通理解が図られ、それが具現化された教育活動が進められている。教職員一人一人の苦労の中で学校経営や組織の中の話し合いや研究を進めてくれているが、ワンチームとしてこれからも取り組んでほしい。
- ・学校から出されるお便りや情報により、保護者の方々にも理解していただいている様子がうかがえることは素晴らしいことである。

(2) 学校経営・組織について

・組織の中にはベテランもいるし若手もいる。学校の中で指導したり学んだりという道筋を作っていくことが大切。中堅のリーダーとなる存在も必要である。今後も組織として教職員が一丸となり、学校としての「生きる力」をつけていってほしい。

(3) 学習指導について

・子どもたちに興味を持たせる授業をすることは大切であるが、教師にとっての永遠の課題である。様々な職員がそれぞれの持ち味を發揮し、力を合わせて取り組んでいる様子がよくわかる。

・子どもたちがじっくり考えられるような課題を出したり、教具を工夫したりする中で、目標が達成できるよう、さらにがんばってほしい。

(4) 道徳について

・相手を思いやる気持ちを持ったり、生活の中で具現化できたりする道徳でなければならない。話し合い、行動して、自己も他も大切にできるようにすることが大切である。

・大人の後ろ姿を見て子どもたちは育つ。大人自身が自分たちの行動や言動に責任を持ち、子どもたちを大切に育てていくことが大切である。

(5) 特別活動について

・豊小学校では、授業時数を確保するため、委員会活動の特設時間は設けていない。朝や業間の時間を使って委員会の活動を行うことで時間を確保している。今の学力を保っていくためにも授業時数の確保は必要不可欠であろう。

(6) 学校行事について

・行事について、今年度は保護者の方々より高評価をいただいた。運動会については、これまでの心配されていた課題も今年度は滞りなく実施することができていた。文化発表会では子どもの発達段階が見られた。どの行事においても、子どもたちはしっかり話を聞くことができ、学校として一体感が感じられるものであった。子どもたちに力がついていることを感じられるものであった。

(7・8) 生徒指導・生活指導について

・スマホやSNSの課題については、子どもにわかるように理解をさせることや、保護者にもそれらの弊害をあらためて理解していただくことも大切である。どこの学校でも見られる課題だが、メリットとデメリットをしっかりと見極める力をつけられるよう、今後も取り組みをお願いしたい。

(9) 勤務について

・保護者や地域との連携を図り、理解を得てもらう中で、計画的に年次有給休暇を取得していく必要がある。授業に向けて教材研究をするためには、時間が必要となってくる。これからも工夫を継続しながら、限られた時間を有効活用してほしい。

・一人ひとりの教職員が自分の教育活動について、何が大事なのか、また何を削るのかということ、あらためて判断し、自己マネジメントしていくことが大切である。

(10) PTA・地域社会について

・運動会では、PTAの役員の皆さんを中心として、保護者の方々が協力してくださったおかげで、大きな行事を成し遂げることができた。子どもたちの成長を感じたり、取組の苦勞を感じたりすることができたものであった。PTAと地域の連携が取れていることを感じる機会となった。